



文責：上村 勤（学校運営協議会会長）

猛暑、酷暑、暑熱、暑気、暑歳、暑伏…。本当に暑い暑い夏です。残暑の中の2学期ですが、子どもたちが健やかに学校生活を送れますよう祈るばかりです。

今年で4回目の「職員・委員による懇談会」報告ー8月26日(火)ー

この懇談会は、「現場の先生方から、『教育活動を進める上で困っていること・地域と連携していきたいこと』を率直に聞かせてもらい、CSの推進に活かしていく」ことを目的として、令和4年度からスタートしたものです。

当日は委員8名、藤田校長先生を始めとする12名の先生方が4グループに分かれて、学習指導や学校行事、環境整備、CSルームの活用などのジャンル別に、①学校側の悩みや困っていること、②解決への手立てについて意見交換がなされました。

そして、各グループから話合われた内容についての発表があり、全員で情報共有をしました。

1 開会のあいさつ（学校運営協議会会長）

懇談会の冒頭、私が次の資料を提示して、堀小の教育活動に対して学校運営委員会が「出来ること」について皆さんに説明をしました。

目指す堀小の教育：教育目標・重点目標

足りない点
不十分な点
困っている点
➡お金、施設
人材、知識
時間

令和7年度 「堀小職員と委員との懇談会」資料 R7.8.26 上村 勤

学校運営協議会が出来ること

- ① 教職員の皆さんの考え、本音、困り感を知ったり意見を述べる
➡ 諸々の会議や行事に参加して（本日の会議もその一つ）
- ② 教育活動を支援する人材（父母祖父母、地域住民等）を募る
➡ ア 登下校見守り隊
イ 「総合学習」のゲストティーチャー
ウ プール監視者
エ 持久走コース監視員
オ 高学年のミシン学習支援者
カ 低学年の木曜放課後の補充学習支援者
キ 低学年のクロカンスキー用具装着の支援者
ク 「どんと焼き」「とばき」活動の指導・支援者
ケ 学校田の田植え・稲刈りの支援者 等々
※これらは、教職員の皆さんの要望をもとにして、学校運営協議会が具体化したものです。中には人材に応募・参加する委員もありますが、基本的には「募る」活動が委員の仕事です。
- ③ 「地域の伝統文化、歴史」などの情報を提供する
- ④ 校舎内のCSルームで児童と交流・委員同志の会議や憩い・事務を行う

「学校運営協議会」は「何でも屋」ではありません。まずは職員の皆さんから率直な話を聞くとともに意見を述べ、祖父母の方々も含めた保護者や地域住民の中から支援可能な人材を集めたり、地元堀之内に関する情報を提供したり、地域と連携した学校づくりに貢献することが任務です。

また、6~7月に募集した「プール監視支援」では、10名が協力を申出て、25日間で30回、延べ50名が監視を行った結果、教職員の方々の負担を45時間分減らすことになったと報告しました。



2 四つのグループで話し合われた内容をまとめてみると…

僅か25分ほどの時間でしたが、各グループでは様々なことが話合われました。話し合いの後、各グループから発表がありましたので、その内容をかいつまんで紹介します。

■ 学校側からの声や委員の問い	● 具体的取組案
1 学習支援・児童対応 ・「町たんけん」での情報不足・活動不慣れ ・国際理解教育で英語圏やアジア圏の方との交流を ・器械運動の跳び箱やマットの出し入れ補助 ・高学年のシン学習支援 ・個別に支援が必要な児童への対応	➡CS 委員に事前に打診。レクチャー役や付添者の人選は十分可能 ➡アジア圏であれば、地元企業やリカレント教育に従事者がいる。観光協会や国際大学へも打診可能 ➡専門知識が無い方でも支援は可能 ➡(株)シガポールファクションの元社員に打診してみる ➡「CSルーム」の活用（使用の際のルールづくり、具体的な活動内容を明確にして人材を募集する等々）
2 環境整備・安全面 ・広い敷地内（グラウンド・畑）の除草は？ ・少子化で校舎内清掃が不十分では？ ・一人で下校する子どもの増加	➡見守り隊員や地域住民に働きかけて、草刈り機による除草ができるのでは？ ➡運動会～冬囲いの中で、大人の手による活動は？ ➡「見守り隊」のベストを大量に購入・配付して、可能な見守り者を増やす
3 学校行事 ・「お神送り」当日の児童サポートがあるとよい	➡必要ならば、「町たんけん」と同様に可能である
4 学校運営協議会委員との連携 ・児童、教職員と学校運営協議会委員との交流 ・「人材バンク」的なリストがあると良い ・PTA 役員ももっとCSに関わる必要が？	➡「みつわ祭り」で「CSブース」を設けてみては？職員と委員との懇親会も持てたらよい ➡地域コーディネーターを中心に作成してみる必要がある ➡PTA 副会長も会議にオブザーバーとして出席してもらって、理解を促すのがよい

3 懇談会を振り返っての校長先生のお話

「CSが始まって4年になります。『学校を核とした地域づくり』に向け、地域と学校が連携・協働して行う「地域学校協働活動」が重要になってきます。学校側も学校運営協議会に頼るばかりでなく、学校は地域に対して何をしたいかなくてはならないのが大切です。是非とも両者間の風通しを良くしていきたいものです。」